

# 親子と街がはぐくむ賢い商店街ライフ wadatch

“わだっち”

親子で街デビュープロジェクトの活動ブログはこちらをご覧ください。  
<http://blog.goo.ne.jp/machidebut>

## 創刊号

発行日 2012年5月17日  
発行元 わだっち編集部  
連絡先 090-3097-8636  
machidebut\_info@yahoo.co.jp

### 創刊に寄せて

はじめまして！私たちは、子育て世代の目を見た和田の暮らしを伝える新聞「わだっち編集部」です。

街の豊かさを私たち子育て世代が知り・かわり、子ども達の時代まで街の豊かさを残したい。  
『子育てを助けてもらう』だけでなく、お店や街とたがいに役立ちあう関係を創りたい。  
一人ひとり小さいお客さんの力。結びついて、新しい街の元気を作りたい。

「消費者の力を商店街づくりに生かすビジネスプラン」の試みとしてisb公共未来塾の社会起業育成ビジネスプランコンペに採択を受け、街づくりや地域に関心を持つ母親世代が集まり、2010年から「親子で街デビュープロジェクト」を立ち上げ活動をしています。（活動ブログはこちら→<http://blog.goo.ne.jp/machidebut>）

まずは、私たち子育て世代が商店街のみなさんと出会うことから始めよう！と、2010年から商店会の協力をいただき商店街との出会いイベント「親子で街デビュー@和田商店街」を開催しました。

子育てを通して地域の大切さを思いながら、なかなか出会うきっかけがつかめなかった商店街。通り過ぎるばかりの和田商店街に残る「暮らしの豊かさ」「人と人のふれあい」に驚き、長い年月を重ねた先輩たちの積み重ねに私たちは感動しています。

今年の2月から母親の有志が集まり「文章講座」で記事作りを学びました。

成果を地域新聞「Wadatch（わだっち）」にまとめて、和田商店街の魅力を知らない母親や地域のみさんに発信したい。子育て中だけれど、これから私たち親子がお世話になる街のために、素敵な商店街が私たちの子ども世代まで残ってくれるように！私たちのささやかな視点やスキルを生かして、今あるこの街の豊かさを伝えたいと思います。

「Wadatch（わだっち）」は、和田+Watch（見る）の造語です。

街の暮らしを知らない私たちが「見た」和田商店街の豊かさ、

街とかわかるからこそ生まれる「人の輪」、

先輩たちが築き、後に続く若い世代への道しるべとなる「轍（わだち）」。

3つの願いがこめられています。

今ある豊かさに私たちの想いを加えて、新しい街の魅力を生み出したい。

「Wadatch（わだっち）」創刊。どうぞよろしくお願ひいたします。

親子で街デビュープロジェクト代表/わだっち編集部 西本則子



## わたしが「わだっちメンバー」です



あまちゃん 堀ノ内在住の3男児の母。商店街の人は、子ども達に声をかけその成長を見守ってくれている。私は仕事の後、いつも励ましてもらう。ここにもからだにも優しくして良いものに会える、あったかい場所。それが私にとっての和田商店街。この街に住むたくさんのひとに良さを知ってもらい、利用してもらいたいと、絶賛宣伝中☆



さっちい。杉並在住歴20年、3歳&0歳二児の母です。私が見た和田商店街はまさに休火山。今はシャッターの降りた店もチラホラですが、その裏では「商店街を盛り上げたい！」という熱い想いがマグマのように煮えたぎっていました。知るほどに面白い商店街、スーパーの便利さに勝る魅力を一緒に発掘していきたいです！



スライス(白石あすか)。6歳3歳の2児の母。和田商店街の外れにあった「志賀書店」の長女として生まれ、今はオシャレになって存在感を示しているstudio all in Oneでダンスを習ってきた生粋の和田っ子。昔ながらの商店の良さが濃く残る和田商店街、ふらっと立ち寄り、ちょっと一服できるスペースがあったらいいなと妄想。



まりっぺ。0歳男児の母です。普段の買い物はほとんどスーパーだった私ですが、お店の方にインタビューしてみてもびっくり！お店の人しか知らない、面白い知識・お得な情報・すてきなストーリーをたくさん聞くことができました。これは楽しい…もう商店街でのお買い物にハマりそうです^^。



ゆかりん 和田在住の1歳女児の母。商店街とは無縁の生活だったのが、こどもが生まれ、「この街が娘の故郷になる」と思っていたところへ「親子で街デビュープロジェクト」と運命的な出会い！今では和田商店街に足繁く通う日々。わたしのような商店街初心者ママさんたちに「我が街」和田の魅力伝えていきたいです。



まりなっちょ(竹林真理奈)。3歳&0歳の二児の母です。住まいは西荻窪なので、和田商店街は編集部に関わってからの付き合いなのですが、人情味豊かな店主さんと個性溢れる素敵なお店がある和田商店街にすっかり虜です♡親子連れ×和田商店街というコラボの可能性にドキドキワクワク！



ちき(坪田知己)。横浜在住の地域情報化アドバイザー。にしもちゃんに誘われ、和田で文章講座を開催したら大好評。ミイラ取りがミイラになった。「わだっち」は、商店街と地域住民を結び、大震災後の新しい時代=「共感社会」の扉を開ける重要な取り組み。アドバイザーとして若いママたちを応援します。



みずか(井上美須加)。ワークショップデザインを担当しています。このプロジェクトの魅力は、回を重ねるごとに笑顔が増え、信頼関係が深まっていること！和田商店街に関わる素敵な方々が、もっと楽しく知り合うために「逸品持ち寄り、自慢パーティー」はどうかしら？と、イメージを膨らませています。

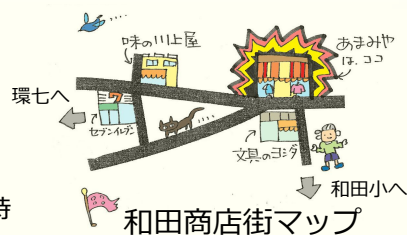


にしもっちゃん(西本則子) 22歳娘の母。消費者が商店街のよさを知り、街を盛り上げる一翼を担う「親子で街デビュープロジェクト」の仕掛け人。生後2ヶ月で商店街の立っ物屋に預けられ「街の人情」で育つ。和田商店街に残る「日本人が忘れかけた豊かさのある暮らし」に感服。お客さんとお店がかかわることによって「街の元気が生まれる」姿を妄想中☆

「あなたのために」選び抜かれた服が並ぶ。

## 婦人服店 あまみや

住所 杉並区和田 3-11-3  
 電話 03-3381-2188  
 営業時間 平日9時半～7時 日曜12時～7時  
 定休日 不定期



### 「ヌメツ」とした生地！？

「ちょっとこの生地を触ってみて。『ヌメツ』とじているでしょう。これがいい糸で出来た生地。パサパサした生地は毛玉になるの」。

店主の巖さんが差し出した赤いセーターは、確かにどこかしっとりとした触り心地がした。頬ずりしたくなるほど柔らかい。

東高円寺・和田商店街にある「あまみや」は、一見よく見かける「商店街の婦人服店」。だが、そのこだわりに驚かされた。

### 毛糸屋から婦人服店へ

60年前の創業時は毛糸屋さん。時代とともに婦人服中心になっていった。

「昔、女の方はみんな自分で服を作っていた。でも安く見た目も既製品が出回るようになってから、そっちを買うようになってきたの」。

昔の人は素材の良さで洋服を選んだが、今の人はデザインで選ぶ。ブランド服のデザインを真似た安い中国製品が氾濫し、品質の良いものを探すのが大変になった。

「でも昔の人は『いいもの』を知っている。だから手は抜けないわ」と奥さんの典子さんは言う。デザインも今風で、それでいて生産国や縫い目までも細かく見て洋服を仕入れている。



気さくなご主人と奥さん。春らしいピンクの装いが素敵。ご主人のセンスにリピーターが集まってきているそう。



左が従来の洋服の縫い目。右が仕立てのよい洋服の縫い目。仕立ての良いものは縫い代がしっかり取ってある。

お店の方が、ひとりひとりのお客さんを知ってくれているなんて！

おどろき！！



熱心に洋服へのこだわりを説明してくれる奥さん。

### 「あの人が着てくれるかな」

お客さんの7～8割がリピーター。それだけに手は抜けない。取材中も「こんにちは！」となじみのマダムが2人、お店に入って来た。「問屋街で洋服を仕入れるときは『あの人が着てくれるかな』と思い巡らせながら選ぶのよ。ウエストや胸回りのサイズも測るの」。まさにお客さんの目線での商売だ。試着すると「私にぴったり！」となるわけだ。このサービスは嬉しい。

「『来てよかった！』って思ってもらいたい。『ステキな服があった』でも『安く買い物できた』『楽しくおしゃべりできた』でもいい。満足して帰ってもらいたいんだ」と巖さん。

お客さんに寄り添う仕事ぶり取材して、冬の日にほっこりと気持ちが温まった。

(取材者：まりっぺ 取材日：2012年3月8日)

### ■ミセスの心を和ませる「母の日」セレクションは、娘力・孫力UPのつよ～い味方に！

和田の街でミセスの心に寄り添い続けて50年以上のあまみや。ご無沙汰しがちなお母さん・おばあちゃんに、こころのこもった「母の日」や「お誕生日」ギフトはいかが？  
いつもなかなか会えないけれど、小さな贈り物が会えない時間をつなげてくれますよ！

「シニアミセスの好みかわからない？」というあなた。  
お店で一声かけてみてくださいね。



お客さんが商品ののアクリル毛糸で編んでくれたふくろう。店頭商品の雨よけカバーもお客さん作だ。

### ■半徑10メートルのあまみやさんエピソード

- ・あまみやの店主さんは、大の韓国ドラマファン。特に歴史物、イ・ピョンホンに詳しい。何を隠そう、私もあまみやさんに教えてもらって韓流デビュー！

(日の出塗料店 吉村さん談)